

宇治市 往還型研修③  
ひがしうじ幼稚園の保育より

# 実践事例から受け取るもの

ある教育実践が成果をあげ、その実践を見るために、多くの見学者が訪れるようになった。さまざまな見学者がいたが、プログラムの具体面を事細かに尋ねて資料をコピーしていったグループは、見学の結果を自分たちの実践にはあまり生かせなかった。これに対して自分たちの実践に生かしたグループは、形をコピーするのではなく、この実践の「精神（スピリット）」を汲むことによって、自身の状況に適した独自の実践をつくり上げていた（ショーン、1988）

# 往還型研修を通じて**実践共同体**へ

- 子どものことを語るのは楽しい 子どもから学ぶ 笑顔があふれる
- 肯定的な子ども観
  - ー子どもの小さな挑戦に気づいて、たたえることのできる実践者に
- 子どもの姿を出発点に、保育者が何のためにそうしたのかを中間点にして、保育の手立て（援助・環境構成）を学ぶ
- 子どもの声を拾って保育者と同僚と保育を共に創る**過程**を見せていただいた（人は過程から学ぶ）
- ひがしうじ幼稚園が保育をひらいてくださったからこそ  
学び合えた研修

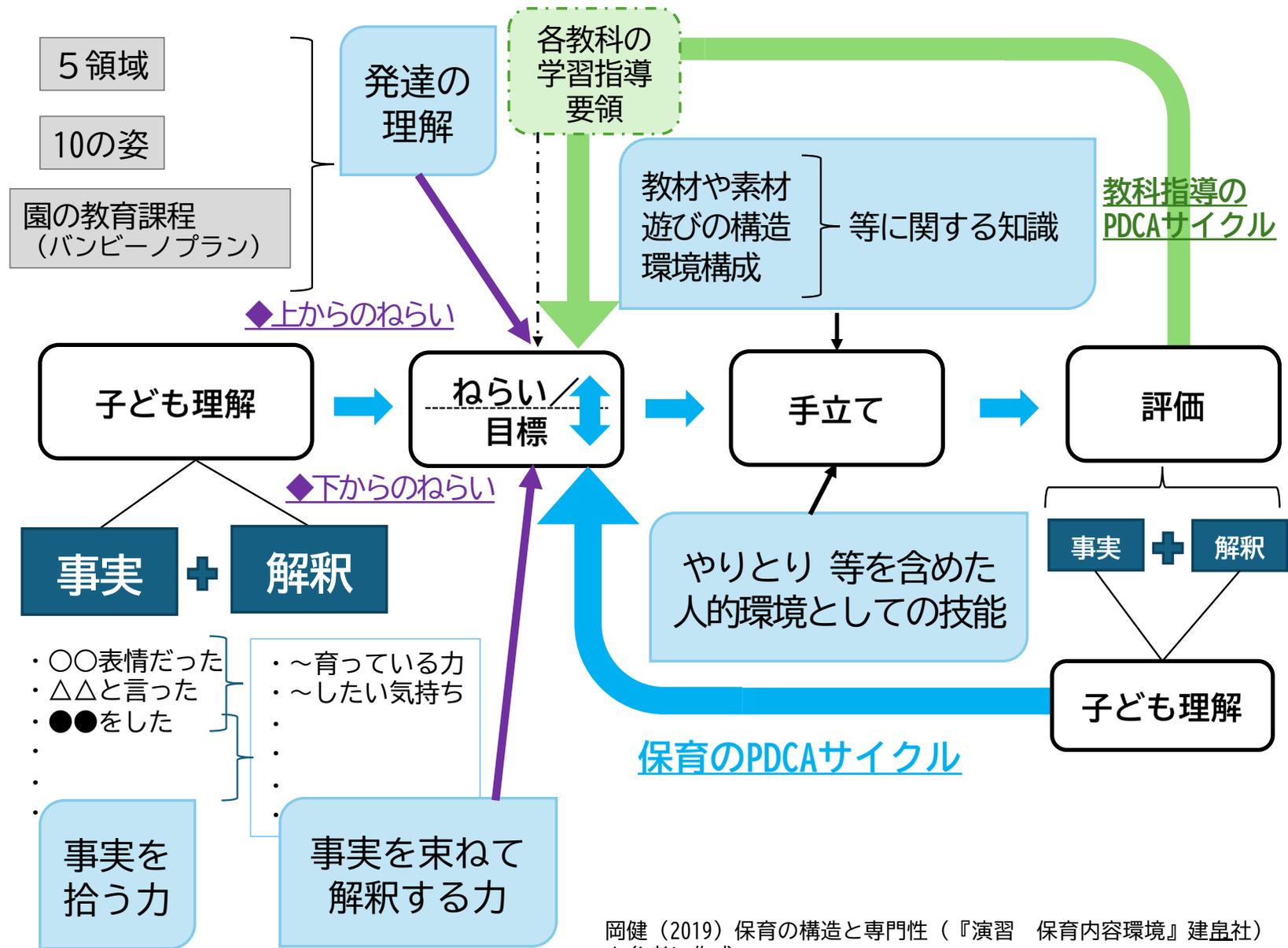
## 第2回往還研修からの保育の積み重ね(1)

- 自ら**片付け**に向かう姿は・・・

- 安心から**挑戦**へ

## 第2回往還研修からの保育の積み重ね(2)

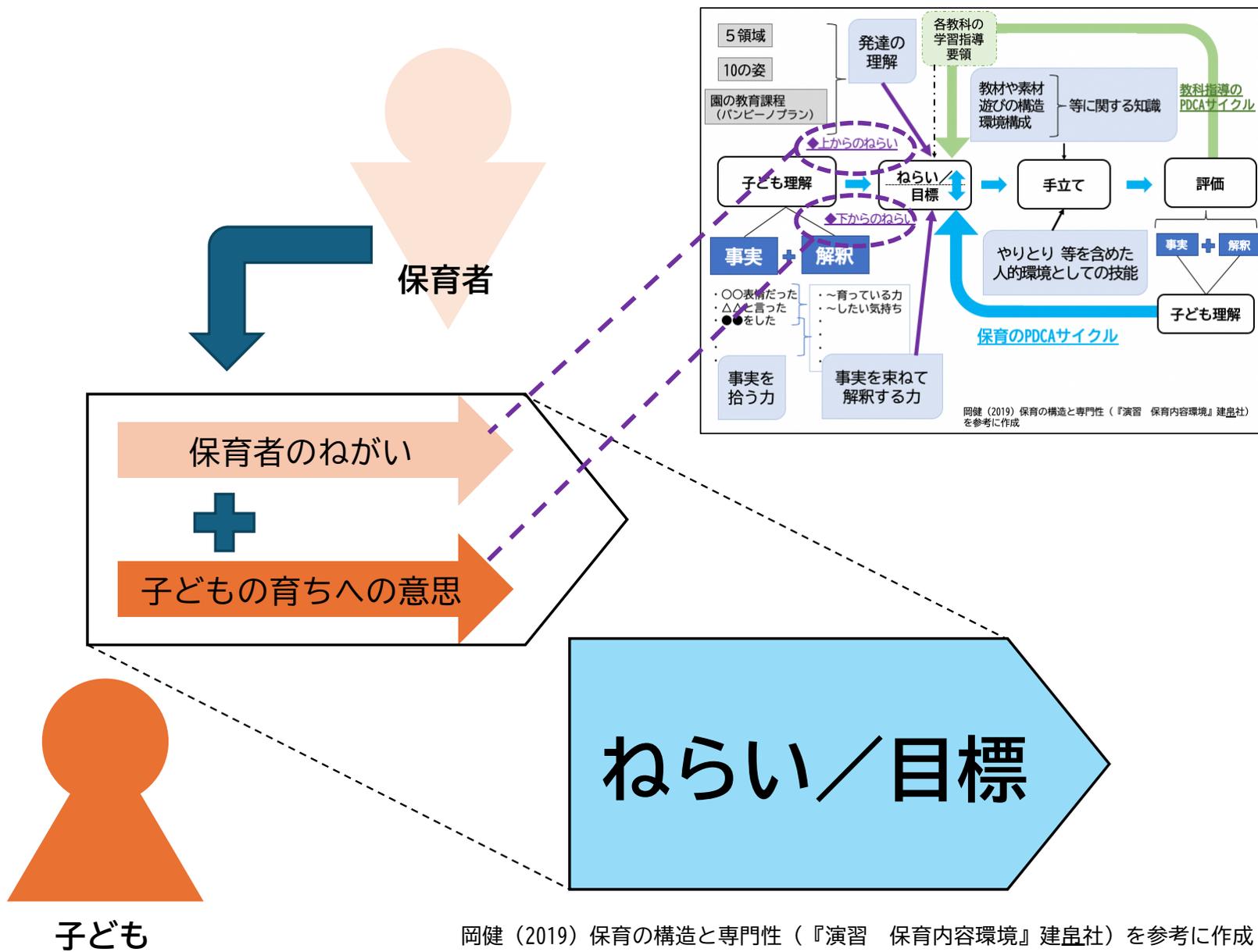
- 幼児にとってどうであったか? → **子どもの事実を拾うことから**
- 幼児のやりたいことに「歩調を合わせる」ことを大切に  
→ **子どもの声からつくる保育へ**
- 2クラスで環境を一緒につくることを大切に  
→ **同僚と一緒につくる保育へ**



岡健 (2019) 保育の構造と専門性 (『演習 保育内容環境』建畠社) を参考に作成

## 保育の専門性(岡、2020)

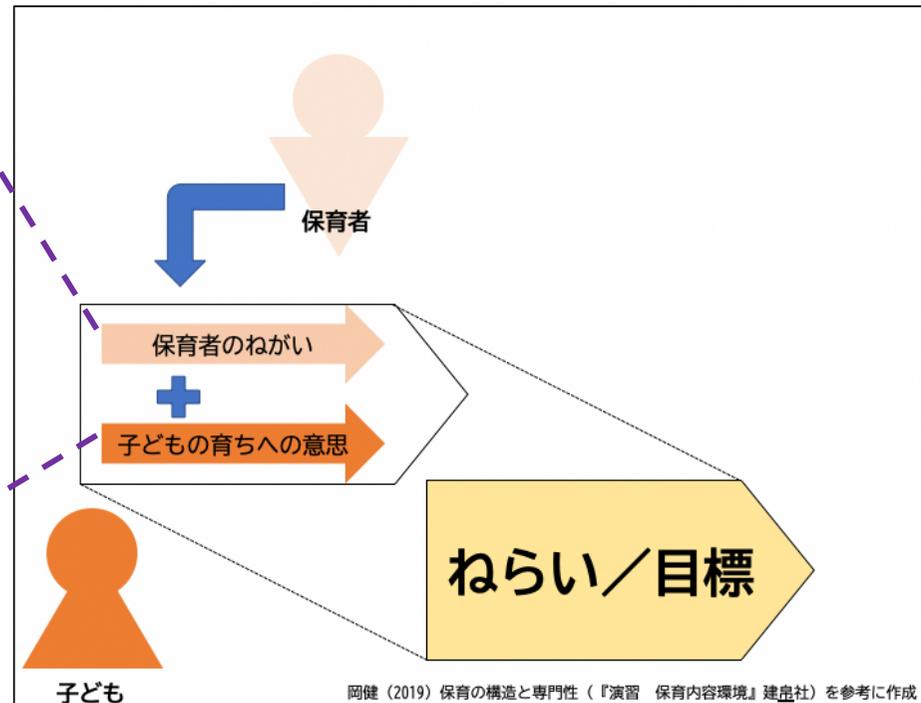
- **事実**を拾う力(⇒子ども理解)
- 事実を束ねて**解釈**する力(⇒子ども理解、ねらい)
- **発達**の理解(⇒ねらい)
- 教材や素材・遊びの構造・環境構成等に関する**知識**(⇒手立て)
- やりとり等を含めた人的環境としての**技能** (⇒手立て)



# 子ども理解からねらいへ

## 上からのねらい

- ②その年齢のその時期に  
大切にしたいことを考える  
(⇒発達を理解  
保育者のねがい)  
★5領域 ★10の姿  
★コンセプト



## 下からのねらい

- ① 事例の〇〇ちゃんと保育について  
書き、話し合う  
(⇒子ども理解  
子どもの育ちへの意思 の理解)